



29年 8 月 22 日

伊勢原市協働事業完了報告書

伊勢原市長 殿

住 所 [REDACTED]
 団体名 Challenge!国際交流 in 伊勢原
 代表者氏名 土井 誠

平成28年12月28日付けで協働事業採択決定通知を受けた事業が完了しましたので、伊勢原市市民協働事業提案制度実施要綱第14条の規定により、関係書類を添えて次のとおり報告します。

1 協働事業の成果

協働事業名	チャレンジしよう！国際交流2017
事業費総額	206,279 円
事業期間	自 2017 年 7 月 17 日 至 2017 年 7 月 23 日
実施場所	中央公民館 市民活動サポートセンター 伊勢原文化会館展示室・伊勢原市立大山小学校 伊勢原駅前中央商店会
参加者数	140名
事業実施内容及びその成果	○市内28家族・近隣市2家族にホームステイ先を受けて頂いた。各家庭の日常を体験してもらいながら交流を図る事でお互いの国の違いや良さを知るきっかけになり世界との繋がりを経験する事が出来たと好評でした。 ○大山小学校との交流 児童からの大山の紹介からはじまり、英語を用いて交流後コマ回しとふれあいには来訪者一同喜んでいた。3時間という時間についても丁度良い時間配分でした。3年目となり児童の積極的に話しかける姿と笑顔が印象的でした。その後宿坊での昼食、大山阿夫利神社での祈祷や見学、伊勢原の歴史・文化に触れることができた。○また今年は東海大学訪問をし、大学生との交流も出来た。 ○駅前中央商店会のサマーフェスタをきっかけに伊勢原市国際交流委員会と大山詣りの宣伝をする機会に繋がり、来訪者と共に宣伝ができて効果的でした。 ○総合評価 訪問者の喜びはもちろん、迎え入れる側も伊勢原の再発見が出来、交流する良い機会となった。

第4号様式(第6条関係)

伊勢原市協働事業収支決算書

協働事業名	チャレンジしよう! 国際交流2017
団体名	Challenge! 国際交流in伊勢原

収入の部

区分	見積額	清算根拠(数量、単価等)
会費収入	105,000	3,000円×30組・3,000円×5人
スポンサー収入	75,000	5,000円×15社
寄付金	15,000	伊勢原市国際交流委員会より
市負担金	0	
前年度繰越金	11,279	2016年度より
収入合計額	206,279	

支出の部

区分	見積額	清算根拠(数量、単価等)
謝金	11,480	5,000円×1回 6,480円ありがとうイベント食事代として
施設会場費	2,000	サマーフェスタブース出店料2000円×1
消耗品費	4,975	領収書/封筒代/名札ホルダー等
印刷製本費	34,720	パンフレット900部・説明会資料・各イベント資料印刷 ・お礼状100部印刷代等
通信費	10,846	郵送費(ホスト・協賛者、協力者等関係各所への郵送) 各種案内・報告郵送・お礼状等)
交通費	40,420	ケーブルカー代・東海大学駅前往復
飲食費	78,411	ティーパーティー・各日昼食代・アレルギー対応等
イベント消耗品	14,372	大学イベント
繰越金	9,055	
支出合計額	206,279	

チャレンジしよう！国際交流2017 事業評価シート

段階	評価項目
準備段階	1. 協働が開始された段階はいつからか ☒ 企画の段階から ☐ 実施段階から ☐ その他 () 2. 協働の呼びかけはどちらからか ☒ 市民活動団体 ☐ 市 ☐ その他 () 3. 協働で行う意義は明確だったか ☒ はい ☐ いいえ 意義 [] 4. 事業の目的は明確だったか ☒ はい ☐ いいえ 目的 [] 5. 事業の目標（何がどのような状態になることを意図しているか）は明確だったか ☒ はい ☐ いいえ 目標 [本市の観光資源の活用により世界へのPR] 6. 相互理解は十分だったか ☒ はい ☐ いいえ 理由 []
実施段階	7. 協定書作成にあたって十分協議したか ☒ はい ☐ いいえ 理由 [] 8. 事業運営上の役割分担は適切だったか ☒ はい ☐ いいえ 理由 [役割分担がはっきりしており運営がしやすかった] 9. 進捗状況や情報を共有できたか ☒ はい ☐ いいえ 理由 [] 10. 実施プロセスの記録は残せたか ☒ はい ☐ いいえ 理由 [] 11. 互いの特性を活かすことができたか ☒ はい ☐ いいえ 理由 []
終了後の段階	12. 事業内容の報告を作り、公開できたか ☒ はい ☐ いいえ 理由 [] 13. 目的・目標は達成できたか ☒ はい ☐ いいえ 理由 [] 14. 今後の課題と改善策を話し合ったか ☒ はい ☐ いいえ 理由 [費用負担について来年度協議をしたい（大山ケーブル代）] 15. 総合的に見て事業に対する満足度は 【 ⑤ 4 3 2 1 】 理由 [] 16. その他、気づいた点 大山が日本遺産に認定され、参加者に大山に登ってもらうことで世界へ大山をPRしてもらうきっかけとなる。